

令和6年第14回

札幌市教育委員会会議録

令和6年第14回教育委員会会議

1 日 時 令和6年7月26日(木) 13時30分～17時10分

2 場 所 STV北2条ビル6階 A・B会議室

3 出席者

教 育 長	山 根	直 樹
委 員	阿 部	夕 子
委 員	佐 藤	淳
委 員	石 井	知 子
委 員	中 野	倫 仁
教育次長	廣 川	雅 之
生涯学習部長	井 上	達 雄
学校教育部長	佐 藤	圭 一
国語小委員会委員長	市 川	恵 幸
教科用図書選定審議会委員	高 桑	陽 子
保健体育小委員会委員長	小 林	大 介
教科用図書選定審議会委員	大 卷	太 一
道徳小委員会委員長	桑 原	俊 二
教科用図書選定審議会委員	高 橋	智 子
数学小委員会委員長	原 田	格
教科用図書選定審議会委員	三 浦	敦 司
理科小委員会委員長	三 浦	英 悟
教科用図書選定審議会委員	寺 田	晋 哉
児童生徒担当部長	喜多山	篤
総務課長	千 田	博 史
庶務係長	新 井	達 之
書 記	滝野沢	由希奈

4 傍聴者 27名

5 議 題

協議第1号 令和7年度使用教科用図書の選定について

## 【開 会】

○山根教育長 これより、令和6年第14回教育委員会会議を開会いたします。  
本日の会議録の署名は、阿部夕子委員と中野倫仁委員にお願いいたします。  
なお、道尻豊委員からは、所用のため会議を欠席される旨の御連絡をいただいております。

## 【議 事】

協議第1号 令和7年度使用教科用図書の選定について

○山根教育長 それでは、議事に入ります。協議第1号「令和7年度使用教科用図書の選定について」です。では、はじめに、教科用図書採択にかかるこれまでの経過と今後の流れ等について、事務局から説明してください。

○学校教育部長 学校教育部長の佐藤でございます。私から、教科書採択に係るこれまでの経緯と今後の流れ等について、ご説明いたします。

それでは、まず、札幌市教科用図書選定審議会における調査研究及び審議の経過についてご説明いたします。

本年度は、中学校・義務教育学校後期課程・中等教育学校前期課程用教科用図書及び高等学校用・中等教育学校後期課程用並びに特別支援教育用教科用図書の採択替えを実施いたしますことから、去る5月22日に開催されました令和6年度札幌市教科用図書選定審議会総会におきまして、令和7年度から使用する教科用図書の調査研究について諮問し、7月9日、審議会から調査研究報告書（答申）が提出されました。

この間、審議会の中学校部会におきましては、1回の部会と7回の小委員会を、高等学校部会におきましては、3回の部会を、特別支援教育部会におきましては、4回の部会を、それぞれ開催し、5月13日開催の第9回教育委員会会議において決定いただいた「調査研究の基本方針」に基づいて調査研究が進められてきました。

次に審議会において、調査研究の対象とした図書について御説明いたします。まず、中学校用教科用図書についてです。中学校の教科用図書については、対象であるすべての教科用図書についての調査研究をいたしました。お手元にあります資料「調査研究報告書（答申）関係部分抜粋」には、本日審議する予定の種目ごとに、調査研究の対象となったすべての教科書についての調査研究結果が取りまとめられております。

なお、教科用図書のデジタル化に関してですが、「令和7年度使用教科書の採択事務処理について」の文部科学省からの通知により、今回は、中学校英語に限

り、デジタル教科書を調査し、考慮の一事項と「することができる」こととなっております。詳細につきましては、外国語小委員会の調査研究の報告の際に触れさせていただきます。

また、2次元コードにつきましては、どの教科においても直接の調査対象とはしておりません。

次に、高等学校用及び中等教育学校後期課程用の教科用図書についてですが、高等学校用の教科用図書は、学校の実態、学科や課程の特色、生徒の特性などを十分に考慮して、全日制・定時制の課程、学科・コースごとに採択することとなっております。

このため、各高等学校ではそれぞれ、校長を委員長とする教科書選定委員会を設置し、自らの学校で使用するものとして適切と考えた教科用図書を選んでおります。また、市立山の手支援学校高等部普通科普通学級については、高等学校に準じた教育課程を編成しておりますことから、高等学校と同様の扱いとしております。

審議会においては、主として、これらの各高等学校等が使用を希望する文部科学省検定済教科用図書を調査研究の対象としております。

次に、特別支援教育用教科用図書についてですが、特別支援教育用教科用図書については、障がいの種類や程度、発達の段階に応じて、児童生徒がもっている能力を最大限に発揮し、社会参加、自立を果たすことができるよう、教科の主たる教材として、北海道教育委員会の採択参考資料の対象となっている一般図書及び教科用図書選定審議会委員が推薦した、教育目標を達成するために適切と認められる一般図書を調査研究の対象としております。

また、市立豊明高等支援学校、市立札幌みなみの杜高等支援学校、市立札幌北翔支援学校高等部及び市立札幌山の手支援学校高等部普通科重複障がい学級が、自校で使用を希望する一般図書を選んでおりますことから、これらも調査研究の対象としております。

次に、今後の教科書採択の流れについて御説明いたします。本日と29日の2回の会議では、令和7年度から使用する中学校・義務教育学校後期課程・中等教育学校前期課程用教科用図書の採択に向け、札幌市教科用図書選定審議会の調査研究報告書（答申）の概要について、審議会中学校部会の各小委員会委員長から説明させていただきます。

教育委員の皆様方には、適宜、質問、意見聴取を行っていただくとともに、調査研究報告書（答申）、教科書見本、市民意見や学校意見等も参考にご審議いただくこととなります。その上で、8月5日の会議において、中学校用教科用図書、

その教科用図書と同様のものを使用する予定である義務教育学校後期課程用教科用図書、及び、中等教育学校前期課程用教科用図書につきましては、種目ごとに、札幌市で使用するために最も適切な教科用図書1種類を決定していただきます。

高等学校用、中等教育学校後期課程用につきましては、各学校の教育課程の実施に最も適切な教科書を、特別支援教育用につきましては、本市の特別支援教育において児童・生徒の状況に応じて使用するのに適切な教科書を決定していただくこととなります。

また、その上で、8月9日の教育委員会会議におきまして、3日間のご審議の結果を議案としてまとめ、継続して採択する小学校用教科用図書を含め議決していただく運びとなっております。私からの説明は、以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○山根教育長 ただ今、事務局説明がありましたとおり、教科書採択に向けては、本日を含めて、4回の教育委員会会議を開催して審議することとなります。

○山根教育長 4回の教育委員会会議のうち、選定のための審議は、本日と週明けの29日（月）、及び8月5日（月）の計3回で行い、その結果を受けて、8月9日（金）の4回目で、採択する運びとなります。本日の流れについて確認いたします。選定のための審議の第1段階といたしまして、教科用図書選定審議会中学校部会の各小委員会委員長から、答申に関する説明をいただき、それについての質疑応答をするとともに、小委員会委員長から意見聴取を行ったうえで、種目ごとに選定の候補とする教科書を何者かに絞ることといたします。

1回目の本日は、国語・書写、保健体育、道徳、数学、理科の順に、5つの小委員会を対象とし、2回目の29日（月）は、英語、音楽、美術、技術・家庭、社会の順に、5つの小委員会を対象とすることとしたいと思います。

なお、2回目に行われる音楽、技術・家庭、美術、地図は、教科書の発行者がいずれも3者以下のため、この第1段階では選定候補のしぼり込みはいたしません。

そして、3回目の8月5日（月）に、第2段階といたしまして、最終的に種目ごと1者を選定いたします。

なお、高等学校部会、特別支援教育部会については、8月5日（月）の教育委員会会議において、調査研究報告書（答申）の説明を受けた上で、審議することとしたいと思います。

みなさん、このような流れでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、今、確認した流れで、小委員会ごとに審議を進めていきます。

まず、各種目の審議に入る前に、教科書採択の任を負っている私たちは、札幌市の教科書採択の公正・中立性をしっかりと確保しなければなりません。私から委員の皆さんに、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 ただ今、みなさんから「影響力の行使や圧力等はなかった」との回答をいただきましたので、私たち5人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保しうるものであると判断いたします。

○山根教育長 では、審議に入ります。まず、「国語」から始めます。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言あり)

○山根教育長 それでは、国語小委員会の委員長、国語の調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○国語小委員会委員長 中学校部会、国語小委員会委員長の市川でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「三省堂」「教出」「光村」の4者、合計12点の教科書です。これらについて、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、国語小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

採択参考資料のインデックス〔国語・採択参考資料〕の国語1ページをご覧ください。

様式1の【教科の目標】をご覧ください。学習指導要領では、国語科の目標として、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指しております。

国語 2 ページをご覧ください。ここから、国語 14 ページまで調査研究結果を示しております。

2 ページから 9 ページまでの「様式 2」、「取扱内容、内容の構成・排列」のうち、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」について、各教科書の特長がみられました。

「東書」1 年 46、47 ページをご覧ください。「てびき」において、学習の見通しをもたせるとともに、読み取った内容について伝え合うなどして、考えを広げたり深めたりする活動が設定されています。

「光村」1 年 28、29 ページをご覧ください。「学びへの扉」として学習の流れを示し、その学習のポイントを「学びのカギ」として示しています。学習の流れや学習のポイントを示すことで、生徒が学習に見通しをもち、自ら活動に取り組める構成となっています。

このほかに、「教出」では「みちしるべ」、「三省堂」では「学びの道しるべ」などにおいて、学習の流れやポイントが示されていました。

次に、調査研究の観点 B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申のインデックス国語の〔国 2〕ページをご覧ください。

国語においては、5 つの具体項目について調査研究いたしました。そのうち、1 の (2) 『書くこと』領域における課題探究的な学習の取扱い、1 の (3) 『読むこと』領域における課題探究的な学習の取扱いについて、各教科書の特長がみられましたのでご説明させていただきます。

「東書」1 年 128 ページをご覧ください。「東書」では、全学年において「情報と論理の学び」が「書くこと」に関する学習の前に設定されています。「情報と論理の学び」で意見と根拠について学習し、理解したことを次の 130 ページからの意見文を書く学習に生かすことができます。

同様に「光村」においても、「思考のレッスン」において、意見と根拠について学習し、理解したことをその後の「書くこと」の学習に生かして取り組むことができる構成となっています。

「三省堂」1 年 200 ページをご覧ください。これも意見文を書く单元ですが、ここでは、質問を中心とした交流を通して、主張、事実、理由付けを区別し、この三点を意識して考える「三角ロジック」の形を用いた活動が示されています。「三角ロジック」を用いて事実や理由付けを整理しながら意見を作ることで、適切な根拠を考えて文章を書くことが可能となります。

「教出」1 年 104 ページをご覧ください。根拠を明確にした意見文を書くにあたり、中心となる学習活動の様子がキャラクター同士の会話によって例示され

ています。根拠について考える様子を示した会話例を参考にし、生徒が自ら活動に取り組みやすい構成となっています。

「光村」2年 232 ページをご覧ください。「光村」では、学習の過程において、ICT を活用することが効果的な場面がパソコンマークで示されています。235 ページをご覧ください。ここでは、Google ドキュメントなど文書作成ソフトのコメント機能を使って、それぞれの作品のよい点や改善点を互いに伝え合う活動が紹介されています。これにより、読み手からの助言などを踏まえて文章をよりよいものにすることが可能な内容となっています。

続いて、1の(3)「『読むこと』領域における課題探究的な学習の取扱い」についてご説明いたします。『読むこと』領域については、どの者も、生徒が主体的に学べるように、学習の流れや学習のポイントを示しており、その内容や示し方には各者の特長が見られました。ここでは、全者に共通する教材として第2学年「走れメロス」を例として取り上げます。

「東書」2年 200 ページをご覧ください。「東書」では、人物像の変化を、場面の展開と重ね合わせて捉えるという学習展開が示されており、それが、学習のポイントとして「言葉の力」に整理されています。この学習過程を通して、メロスの人物像や行動について「話し合う」ことで、自分の考えを広げたり深めたりすることが可能となっています。

「三省堂」2年 224 ページをご覧ください。「三省堂」では、メロスの人物像が読み取れる具体的な表現を抽象化してまとめるという方法が「思考の方法」として示されています。このように、共通する要素や性質を抜き出してまとめることで、メロスの人物像に対する考えを整理し、深めることが可能となっています。

「教出」2年 248 ページをご覧ください。教材の前に、その教材で学ぶことをまとめた「学びナビ」があり、「走れメロス」では、視点の移動や語り手の位置が変化する効果について、本文を例に説明しています。語り手の位置に着目することによって、文学作品の読み深めることが可能となっています。

「光村」2年 220 ページをご覧ください。「光村」では、単元を貫く学習活動と、その単元で扱う文章の読み方を示しています。ここでは、場面の展開に即してメロスと王の人物像を読み取ったり、自分の選んだ観点で、自分が感じた作品の魅力を文章にまとめて語り合ったりする学習が可能となっています。

以上、国語の答申の概要について説明させていただきました。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○阿部委員 調査研究項目の共通項目1で、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」領域があると思うのですが、その中で、札幌の子どもたちが特に課題感をもって解決していかなければいけない点があれば教えてください。

○国語小委員会委員長 課題はどの領域にもあると思いますが、特に、根拠を明確にして自分の考えを述べる、という点に課題があると思っております。令和4年度、令和5年度の全国学力テストの結果でも、根拠を明確にして自分の考えを表現することに課題があると出ておりまして、調査研究項目の1番は、その点を意識して選んでいるところでございます。

○石井委員 先ほどのご説明の中で、「光村」がICTを活用したものがあるとおっしゃっていましたが、これは他者にはない「光村」の特色であると考えてよろしいのでしょうか。

○国語小委員会委員長 はい。そのように考えてよいと思います。

○中野委員 各者、様々な文芸作品を選んでおりますが、「走れメロス」が共通の題材だという話がありましたが、読んでいますと共通の作品が多く、教科書による題材の違いが不明確になってきた印象があります。同じような教材を選びつつ、説明や活用法について解釈の幅を持たせているという流れになってきているのでしょうか。

○国語小委員会委員長 確かに、1年生は「少年の日の思い出」、2年生は「走れメロス」、3年生は「故郷」「初恋」が共通の教材となっておりますが、どこに着目するかというところで、各者の特長が表れていると思います。例えば、「少年の日の思い出」では、「教出」であれば、額縁構造という構造を教える面がメインになっていますが、その他の者においては、語り手の視点という面を中心に置いているというふうになっています。どこに着目するかというところに差があると思います。

○佐藤委員 昨今、文章を論理的に読んで、その内容を正確に把握する、という、いわゆる論理国語に注目が集まっていると思いますが、論理国語の取扱いの分量は各者違いが見られるのでしょうか。

○国語小委員会委員長 基本的には同等程度であると考えております。

○山根教育長 佐藤委員のご質問に共通する部分があるのですが、根拠をもって自分の考え方を表現することを促す点について、特長的な部分があれば教えていただきたい。

○国語小委員会委員長 「東書」1年生の130ページ、写真の意見文を書こうということで、根拠を明確にする流れが書かれています。これに従って進むと、根拠をもって読むことができ、前後の教材にも関連していて、前に勉強した教材や、その後に取り扱う教材にも関連して扱うことができるようになっています。

○山根教育長 それでは、私から小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」に沿った調査研究において、特長が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○国語小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は、「東書」「光村」の2者でございます。

理由といたしましては、「東書」は、教材文の後にある「てびき」に生徒の思考に沿った学習の流れを詳細に示すとともに、「言葉の力」として学習のポイントも示されており、「言葉の力」を手掛かりに、「話し合う」活動を行うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることが可能な内容となっていること、「光村」は、見開きの右側の「学びへの扉」で学習の流れを示し、左側の「学びのカギ」でその単元で学ぶ文章の読み方を示すとともに「見通し」に示されている「学習活動」に取り組むことで、生徒が見通しをもって主体的に学び、自らの考えを広げたり深めたりすることが可能な内容となっていること、などがございます。

2者とも、札幌市で大切にしている課題探究的な学習を図ることが可能な内容となっていると考えます。以上の点から2者を挙げさせていただきます。

○山根教育長 ただ今の意見によりますと、特長が顕著であった教科書は「東書」

と「光村」ということでございました。このことも含めて、皆様からご質問やご意見がありましたらお願いします。

○阿部委員 私の意見といたしましても、「東書」「光村」の2者と考えております。お話があったとおり、札幌の子どもたちの課題感として、根拠をポイントに解決していかなければいけないと考えたときに、この2者には大きな特長があったと感じております。

例えば「東書」では、情報と倫理の学びという単元が設定されており、根拠を吟味することができる内容になっており、「光村」では、思考のレッスンと意見と根拠、ということで、根拠を明確にして書くことを設定されたつくりになっていることから、この2者と考えました。

○石井委員 私も、「東書」「光村」の2者がふさわしいと考えております。1点目は、根拠を明確にして自分の考えを表現するという点、2点目は読むこと領域に関しても、この2者は観点を決めて文章を読んだり比較したりしているという点で良いと思いました。「光村」に関しては、昨年の小学校の教科書採択の際に、教科書内に「楽しく」という言葉がたくさんあったのですが、中学校の教科書にも「楽しむ」という言葉がたくさん出てきており、国語に苦手意識を持っている子でも、楽しく取り組めるような工夫があると思いました。特に、読書を楽しむ、というところに注目したのですが、札幌市として読書活動に力を入れているという中で、読書を楽しむことは非常に大切ではないかと思いました。3年生の教科書の88ページに「私の一冊を探しに行こう」という、図書館に足を運ばせるような活動もあり、2年後に札幌に「こども本の森」ができることもあり、こういった点でも、読書活動を楽しむという視点がある「光村」に非常に好感をもっています。

○中野委員 私は、現在使用している「光村」が候補に挙げられると考えています。各委員がおっしゃったこともそのとおりですが、春夏秋冬の季節の題材を扱った「季節のしおり」というところが各学年にあり、季節感が感じられ、日本の美しさが表現されているので「光村」を選びました。もう1者としては、根拠を示すという観点で「東書」がよいと思います。「三省堂」「教出」はどちらが優れているという判断がつかないため、2者ということでお願いしたいと思います。

○佐藤委員 今回、かなり丁寧に拝見させていただいたのですが、出てきている

4者のレベルはいずれも高く、なかなかどれと選べないということが本音でございます。やはり、質問で申し上げました論理国語という観点から、私の感想として、「東書」の情報と論理の学びの部分と、「光村」の思考のレッスンの部分に、他者よりも厚みがあると思いましたので、この2者を残すべきだと考えております。

○山根教育長 そうしますと、皆さんの意見や、小委員会委員長の意見を踏まえると、「東書」「光村」の2者を選定候補としてあげることになるかと思いますが、いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長

それでは、「国語」については、「東書」「光村」の2者の教科書を、選定の候補とすることとし、8月5日(月)に引き続き審議を行い、1者を決定いたします。

○山根教育長 それでは、国語小委員会の委員長、書写の調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○国語小委員会委員長 続いて、「書写」についてご説明いたします。

今回、「東書」「三省堂」「教出」「光村」の4者、合計4点の教科書について調査研究しました。

まず、調査研究の観点A、採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

採択参考資料のインデックス〔国語・採択参考資料〕の書写1ページをご覧ください。様式1では、書写に関する【学年・領域等の目標など】が示されております。書写2ページから14ページまで、調査研究結果を示しております。そのうち、様式2の使用上の配慮等の第2項目「主体的に学習に取り組むことができるような工夫」について、4者とも、書写で身に付けた力を日常生活や社会生活に生かせるような教材を掲載し、生徒が主体的に取り組めるような工夫をしているという特長が見られましたので御説明いたします。

「三省堂」77ページをご覧ください。ここから、資料編となりますが、次のページでは「便箋と封筒の書き方」など、日常生活・社会生活の中で必要となる書式を確認したり、伝統文化に親しむ資料にふれたりすることができる内容が

掲載されており、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされています。

「光村」109 ページをご覧ください。ここには、「日常に役立つ書式」が集められています。110 ページからの「手紙の書き方」から始まり、115 ページの「レポートの書き方」まで、7種類の「書き方」に関する様々な書式が示されており、生徒が実生活とのつながりを意識して主体的に学習に取り組めるような工夫がされています。

このほかに、「教出」では「書式の教室」、「東書」では「書写活用ブック」などにおいて、書写で身に付けた力を、日常生活や社会生活に生かせるような教材が掲載されています。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申のインデックス国語の〔書1〕ページをご覧ください。書写においては、計2項目について調査研究を行いました。

1の(1)の「課題探究的な学習の取扱い」についてご説明します。ここでは、「筆順の変化」を例として取り上げます。

「光村」70 ページをご覧ください。「光村」では、「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」という学習展開になっています。『筆順の変化』の学習では、「考えよう」で楷書と行書を比べ、「学びのカギ」を手掛かりにしながら筆順の変化を確かめることで、行書の特長を生かした書き方を身に付けることが可能な構成となっています。

「東書」48 ページをご覧ください。「光村」と同様、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」という学習展開となっています。実際に指でなぞって筆順の変化を理解したり、「書写のかぎ」を手掛かりにしながら、筆順の変化を確かめることが可能な内容となっています。

「教出」68 ページをご覧ください。「教出」では、「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」という展開になっています。「試し書き」と「考えよう」で、楷書と行書の筆順の違いを考え、毛筆に生かすことが可能な内容となっています。

「三省堂」48 ページをご覧ください。楷書と行書の違いを確認したあとに、筆順がどのように変化しているかを見付ける課題が設定されています。次の50 ページでは、毛筆で学んだ筆順の変化を、硬筆で生かす紙面構成となっています。

続いて、2の(1)の「我が国の言語文化に関する学習の取扱い」についてご説明します。この調査研究項目については、手書き文字の扱い方について各者の特長が見られました。

「東書」16 ページをご覧ください。「手書き文字と活字」では、身の回りにある活字文字と手書き文字を比較して、特長を見付ける活動や、特長的な書体と使用する場面についての説明が示されており、文字文化の豊さに対する理解を深めることができます。

「三省堂」68 ページをご覧ください。『身の回りの文字』では、手書きと活字の特長を捉え、次の70 ページではそれぞれの魅力について話し合う活動が設定されており、文字文化の豊かさに対する理解を深めることが可能な内容となっています。

「教出」100 ページをご覧ください。「多様な表現による文字」では、教科書の資料や身の回りで見付けた文字について「取材レポート」を作成する活動が設定されており、活字や手書き文字など文字文化の豊かさに対する理解を深めることができます。

「光村」88 ページをご覧ください。『手書きのよさって、何だろう』の漫画をきっかけに、手書き文字のよさについて話し合う活動が設定されています。身近な場面から手書き文字のよさについての考えを深めることで、文字文化への興味・関心が高まり、文字文化を大切にしようとする態度を身に付けることが可能な内容となっています。

以上、答申の概要について説明させていただきました。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたらお願いいたします。

○中野委員 4者の中で、北海道に係る題材の取り上げの濃淡はあるのでしょうか。

○国語小委員会委員長 詳細は、採択参考資料の書写12 ページにもあるのですが、具体的に言いますと、「東書」の16 ページ、タイトルが「北海道」と書いてあります。また、「教出」39 ページ、カムイコタン・釧路湿原・登別等が載っております。「光村」80 ページ、カムイユーカラが載っております。以上のように、地名やポップの形でも載っております。

○阿部委員 「光村」には書写ブックが添付されていますが、他の教科書会社にも同様に別冊があるのでしょうか。実際に採択されたときにどのような活用の仕方になるのでしょうか。

○国語小委員会委員長 書写ブックのように別冊があるのは「光村」のみですが、硬筆でこのような形で学ぶことができるというのは他の者にもあります。

別冊だけ取り出して使うことができるという点、手本を見ながら書くことができ、便利だという話が出ています。

○石井委員 「光村」の教科書の82ページに、全国フォント見つけ隊というコラムがあるのですが、他者の教科書で、フォントについて触れられている部分があれば教えていただきたい。

○国語小委員会委員長 「東書」の16、17ページが主な該当ページとなっております。

○佐藤委員 先ほど、日常生活での活用法についてご説明いただきました。各者、日常的に役立つ書式など取り上げていますが、内容の厚みや授業における活用法の伝え方に各者違いはありますでしょうか。

○国語小委員会委員長 どの者も特長的で、どの社の教科書をとっても日常生活に活かすことができるものになっています。例えば、総合的な学習の時間に、書写でやったことと関連付けて取り上げることができると思います。

○中野委員 「光村」は別冊があり、「東書」にも後ろのほうに書写活用ブックというコーナーがあります。ほかの2者については1冊の中にそれらの要素が分散しているという理解でよろしいでしょうか。

○国語小委員会委員長 教える内容は同じなので、まとめられているかそうでないかの違いであると思います。

○中野委員 別冊になっていることは、別々に持参しなければいけないこと以外に不便さはあるのでしょうか。

○国語小委員会委員長 実際、そこまで不便さを感じることはないと思います。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。

調査研究の観点A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」に沿った調査研究において、特長が顕著であったのはどの教科書でしょうか。その理由と併せて、お聞かせください。

○国語小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は「東書」「教出」「光村」の3者でございます。

理由といたしましては、3者とも毛筆の学習において自ら書き方のポイントを見つけて学習する流れが示されており、札幌市で大切にしている課題探究的な学習が可能な内容となっているためです。

「東書」は、「見つけよう」において、指でなぞって考えるなどの活動をとおして書き方のポイントを自ら考えとともに、「書写のかぎ」を手掛かりにしながら書き方を学ぶことができる内容となっています。

「教出」は、「試し書き」での気づきを基に「考えよう」において、着目する観点が示されており、自ら課題を探究することができる内容となっています。

「光村」は、「考えよう」において、鉛筆で囲む、話し合うなどの活動が示されており、「学びのカギ」を手掛かりにしながら書き方を確かめることで、主体的に課題解決に取り組み、効果的に書く力を身に付けることができる内容となっております。以上の点から3者をあげさせていただきます。

○山根教育長 ただ今の意見によりますと、特長が顕著であった教科書は、「東書」と「教出」「光村」ということとございました。いずれの3者も毛筆の学習において特長的な工夫があるということとございました。このことも含めて、皆さんからご質問やご意見がありましたらお願いします。

○中野委員 国語の教科書と書写の教科書は連動しているつくりになっているのでしょうか。別々の出版社であっても支障はないのでしょうか。

○国語小委員会委員長 どの者も学習指導要領に則っているもので、出版社が異なっても問題ありませんが、国語の教科書で触れた教材文を使った例が、書写の教科書に載っているという点は連動すると思います。

○中野委員 「光村」「東書」の題材に入学願書の例がありました。現実的に、入学願書を手書きで書くことはないと思うのですが、これは就職試験など将来

的なことを見越しているのでしょうか。特定の文例があるものについて、実際の授業で触れることはあるのでしょうか。

○国語小委員会委員長 おっしゃっていただいたとおり、願書はコンピューター入力の部分が多く、手書きが少なくなってしまったのですが、将来的には履歴書を書くときに役に立つなど、形式があるものについて、自分自身を表現するためのものと伝えながら授業をすることになると思います。

○阿部委員 私は「光村」「東書」の2者と考えました。2者とも課題探究的な学習の取扱いとして、自らが主体的に課題を発見して、それをどのように確かめていったらいいのかという学習展開ができるようなつくりになっている点が大きいと思います。我が国の言語文化に関する学習の取扱いという点において、特に手書きで文字を書くということが少なくなってきた中、「光村」は手書きの良さについて分かりやすくマーカーで表現してくださっている点に共感が持てます。また、書写ブックが活用しやすいつくりになっていることから、特に「光村」というふうに考えていきたいと思いました。

○石井委員 私も阿部委員と同じで、課題研究的な部分と我が国の言語文化に関する学習の取扱いの部分で、「東書」「光村」がよいと考えています。課題探究的な部分では、流れが見通しをもって学びやすいと思われる点、我が国の言語文化に関する取扱いの部分では、楷書と行書の使い分けを見たときに、「東書」62ページ、「光村」78ページなのですが、誰に向けて書くのか、というところまで書かれているのが実践的で良いと思いました。

先ほどフォントについて質問させていただいたのですが、今の子どもたちはクロームブックを持って生活していて、スライドを作って発表する場面が授業の中であり、効果的なフォントを使ってスライドを作るという活動もあるので、書写とは違うのですが、効果的な文字の使い方を考えるという点でこの2者がよいと思いました。

○中野委員 私も「光村」「東書」が良いと思いました。まとまっていて使いやすいと思います。国語と書写の出版社が一致しなくても構わないということであれば、「教出」も捨てがたいと考えています。39ページに、釧路湿原やカムイコタンなど北海道に関する書が取り上げられていること、発展的内容ではありますが、94ページの「書の古典」を読むと歴史的な流れが続いているというこ

とを勉強できるので、私は「光村」「東書」「教出」の3者が良いと思いました。

○佐藤委員 私も「教出」に注目しております。1～3年生の各学年に渡って、日常生活場面で「書」がどういうふうに使われているか、表現されているのかということが取り上げられている点が特長的だと思います。そのほか、皆さんがおっしゃっているように、書写ブックが特長的だということで「光村」を推させていただきます。

○山根教育長 それでは、「書写」については、「東書」「教出」「光村」の3者の教科書を、選定の候補とすることとし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、1者を決定いたします。

○山根教育長 それでは次に、「保健体育」について、審議を行います。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

○保健体育小委員会委員長 ありませんでした。

○山根教育長 それでは、保健体育小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○保健体育小委員会委員長 中学校部会、保健体育小委員会委員長の小林でございます。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「大日本」「大修館」「学研」の4者、合計4点の教科書です。保健体育小委員会において、教育委員会が定めた「令和7年度から使用する中学校用教科用図書調査研究の基本方針」に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので報告いたします。

まず、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

インデックス〔採択参考資料 保健体育〕の保体1ページをご覧ください。保健体育科においては、様式1にありますように【教科の目標】【学年・領域等の目標など】が設定されております。次に、〔保体2〕ページの様式2から〔保体

13] ページの様式5までについてです。この中では、様式2の取扱内容、内容の構成・排列の「心身の機能の発達と心の健康」について各教科書の特長が見られました。

スクリーンをご覧ください。

こちらは、「東書」178 ページです。実習「リラクセーションの方法」では、両腕を大きくゆったりと回すような方法や、腹式呼吸を取り入れたリラクセーションが掲載されており、意義や手順を理解したり、心や体の緊張をほぐしたりするための方法を身に付けることが可能な内容となっております。

続いて、「大日本」51 ページです。実習「リラクセーションの方法を試してみよう」では、全身の筋肉を緊張させたり緩めたりする漸進的筋弛緩法が掲載されており、ストレスへの適切な対処を身に付けることが可能な内容となっております。

続いて、「大修館」56・57 ページです。実習「リラクセーションの方法」では、呼吸法や体育実技と関連を図った体ほぐしの運動や、筋肉をリラックスさせる各種リラクセーションの方法が掲載されており、体験的に探究した上で、自分や他者の心と体の状態についてグループで話し合ったりしながら、技能を身に付けることが可能な内容となっております。

続いて、こちらは「学研」の64 ページです。実習「リラクセーションの方法」では、呼吸法や筋肉を意識したリラクセーションである漸進的筋弛緩法が掲載されており、体験的に探究しながら技能を身に付けることが可能な内容となっております。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申保体のインデックス〔保2〕ページをご覧ください。保健体育においては、ここにありますように、調査研究項目として、計6項目について調査研究いたしました。そのうち、各者の特長が特に顕著であった、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」、1の(2)「基本的な生活習慣の確立についての取扱い」について、ご説明させていただきます。まず、1の(1)「課題探究的な学習活動の取扱い」について説明いたします。答申〔保3〕ページをご覧ください。ここでは、「個人生活における健康等に関する課題を見付け、協働的な活動を通して、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上などの保健の見方・考え方と関連付けながら、主体的に解決を目指すことが可能な内容となっているか」という観点で調査を行いました。課題を自分事として捉え、学びの見通しをもつことができる授業の導入や、学んだ知識や技能の活用を促す学習のまとめについて、特長が顕著に表れている箇所について、ご説明いたします。

こちらは、「東書」の 68、69 ページです。

「傷害の発生要因」の導入の「見つける」では、中学生の死亡原因のグラフに着目させて、どのような特長があるか考えた上で、学習課題を示しております。また、まとめの場面の「活用する」では、イラストを参考に学んだ知識を活用して対策を考えることが可能な内容となっております。さらに、188 ページのように、巻末には各技能をまとめた「巻末スキルブック」が掲載されており、資料を参考に適切な方法を学ぶことが可能な内容となっております。

続いて、こちらは「大修館」の 102、103 ページです。

「けがの原因と防止」の導入の「課題をつかむ」では、これまでの経験から自分に起きた怪我を想起することにより、個人生活における課題を見つけて、主体的・協働的に解決を目指す学習活動が可能な構成となっております。また、「学習のまとめ」では、学習した知識を活用して、危険回避のための工夫や対策をグループで話し合うなど、協働的に学びを深める活動が設定されており、日常生活に生かすことが可能な内容となっております。

続きまして、調査研究項目の 1 の (2) 「基本的な生活習慣の確立についての取扱い」についてご説明いたします。答申〔保 4〕ページをご覧ください。1 の (2) 「自他の健康に関心をもち、現在だけではなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組む態度を養うことが可能な内容となっているか。また、健康の保持増進し、生活習慣病などを予防するためには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること、生活行動と健康との関係を理解することが可能な内容となっているか。」という観点で調査研究を行いました。心身の健康は生活習慣と深く関わっており、健康を保持増進するためには、子どもが自分の生活習慣を振り返り、他者と協働して調和のとれた生活についての考えをもてるようにすることが重要です。これらの視点から、特長が顕著に表れている箇所について、ご説明いたします。

「大修館」の 27 ページをご覧ください。特集資料「調和のとれた生活」において、1 週間の生活をチェックすることができる表とレーダーチャートが示されており、運動、食事、休養・睡眠の調和のとれた生活となっているかについて確かめることが可能な内容となっております。また、レーダーチャートを活用してグループで話し合う場面も設定されており、健康の保持増進に向けて、実践意欲を高めることが可能な内容となっております。

「学研」の 37 ページをご覧ください。調和のとれた生活を続けるために、1 週間の生活をチェックすることができる表が示されており、「よい点」と「改善すべき点」を整理し、自らの生活習慣を振り返ることで、健康の保持増進に向け

て、実践意欲を高めることが可能な内容となっています。

以上、保健体育についてご説明させていただきました。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたらお願いいたします。

○佐藤委員 近年注目されている、多様性について取り扱った者はありましたか。

○保健体育小委員会委員長 性の多様性ということによろしいでしょうか。

○佐藤委員 はい。

○保健体育小委員会委員長 保健の学習で、性のマイノリティ多様性の部分について、科学的・医学的な見地から知識等を指導することにはなっていません。ただし、人間尊重の教育の観点から、個性や多様性を認め合う、あらゆる偏見や差別をなくす、心豊かにたくましく生きようとする態度を育むことは、保健の学習を含む、教育活動全般を通して取り組むことになると思います。

○佐藤委員 特に重点的に取り扱っている者はないということによろしいでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 「大修館」の43ページ、ここで性的マイノリティの人が抱える不安や悩みについて、特集資料というところで触れられています。

○中野委員 コロナのことはスペイン風邪などの感染症として学習すると思うのですが、各者の説明の特長はあるのでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 各教科書で、感染症の予防について取り扱っているところがあります。新型コロナウイルス感染症について特に扱っているということではないですが、感染症については全ての教科書で取り扱っております。

○中野委員 「大修館」の156ページ、スペイン風邪の説明の下のところに、フィラデルフィアとセントレールの違いで、ステイホームしたときと外にいたと

きの差があったと非常に分かりやすい説明があり、「東書」にもそういったところがあり、視覚的に理解しやすいかと思いました。ここだけでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 基本的に、発展的な内容になりますので、それぞれ教科書特長があるところで、「大修館」については、そこを強調して表しているということになると思います。

○阿部委員 先ほどの4者の特長の中で、特に「大修館」の説明の中では、各個人で学習したあとに、グループで話し合うシーンが多く設けられているという印象を受けたのですが、そのあたりについて詳しく教えていただければと思います。

○保健体育小委員会委員長 「大修館」の話になりますが、まず個人の課題として出されていて、具体的な知識や理解を深めていき、最終的にはそれぞれで共有しながら、お互いの意見を出し合い、最後には自分に返ってくるという作りになっているのが「大修館」の特長だと思います。

○石井委員 札幌市の子どもたちの、保健体育における課題があれば教えていただけますでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 札幌市の子どもは体育の授業が楽しい・運動が好きという数値が高い状況であります。一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果によると、実技の状況がやや低い傾向にあります。保健体育を学習して、もっと運動しようと思うようになった子どもほど、授業以外の運動時間が長くなっているということが分かっていますので、健康な生活と運動・スポーツとの関わりを理解したり、心と体が密接に関わっていることが実感できたりする授業を行うことが重要だと思います。

○山根教育長 今の石井委員の質問に関連しますが、先ほどの委員長のほうから、生活習慣と健康の関係性について各者どのような記述があるか解説いただいたところで、石井委員がおっしゃった体力・運動習慣が健康に及ぼす影響はどうかということについて、特長的な記述がある者はありますでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 「大修館」21 ページにおいて、バスケットボール

10 分間と同じ運動量の活動を比較して、掃除や洗濯など家事を手伝うことでも運動に繋がることについて分かりやすく説明しております。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」において、特長が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○保健体育小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は「大修館」と「学研」の2者でございます。理由といたしましては、「大修館」は、子どもがこれまでの経験から、自分に起きた怪我を想起することにより、個人生活における課題を見つけるなど、主体的協働的に解決を目指す学習活動が可能な内容になっております。「学研」は、基本的な生活習慣について、自らの生活習慣を振り返ることで、健康の保持増進に向けて実践意欲を高めることが可能な内容になっております。2者とも、札幌市が大切にしている課題探究的な学習の充実を図ることができる内容になっていると考えます。以上の点から、2者を挙げさせていただきたいと思っております。

○山根教育長 ありがとうございます。ただ今の意見によりますと、特長が顕著であった教科書は、「大修館」と「学研」とのことでした。2者とも、課題探究的な学習を図るうえでの特長が顕著であるということでもあります。このことも含めて、皆さんからご質問やご意見がありましたらお願いします。

○中野委員 教科書の中では自然災害についても扱っていると思いますが、北海道の災害に触れている者はございますか。

○保健体育小委員会委員長 北海道に絞って扱っている者は見受けられませんでした。

○中野委員 「東書」の77ページに胆振東部沖地震の土砂崩れの写真があり、他の者でも扱っているかと気になりました。

○保健体育小委員会委員長 そこまでは我々では調査しておりませんでした。申し訳ございません。

○中野委員 わかりました。「大修館」の115ページ、心肺蘇生について記載があります。回復体位というものがありまして、事故にあった人を見たときには楽な体位を取って救援者を呼びましょう、と楽な姿勢のことを示しています。心臓が左側にあることから、左右どちらの姿勢も取れる場合は右を下にするよう教えているのですが、「学研」126ページと「東書」180ページは左下の写真が使われていました。中学校ではどちらを下にしても良いというふうに教えているのでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 基本的には、右が下でないといけないとは教えていません。そのときの状況から一番楽な姿勢を判断して行動することを教えています。医学的なことには触れていません。

○中野委員 学習指導上は、そこはこだわっていないことで、分かりました。

○山根教育長 皆さんの意見や、小委員会委員長の意見を踏まえると、「大修館」「学研」の2者を選定候補としてあげることになるかと思いますが、いかがでしょうか。

○中野委員 「東書」の後半には、コミュニケーションの方法ということが書かれているほか、インターネット依存についても書かれており、詳しい記載があると思います。選定するのなら、「大修館」と「東書」が良いと思いました。「学研」を候補とすることは問題ないと思います。

○佐藤委員 私も同意見です。見開きで章がまとめられているのが保健体育の教科書の特長かと思っておりますが、見開きのまとまりが良いのが「東書」と「大修館」だと思います。とても読みやすく、見やすい構成になっていると思います。そして「東書」はご指摘があった巻末スキルブックがすごく良いと思っており、応急処置がここにまとめられていることが評価できると思います。「大修館」は安定的な内容ですが、章のまとめや課題を掴む学習のまとめの対応づけがとても良いと思っております。それから、多様性についてはこの2者を取り上げていた印象です。

○石井委員 私も同意見で、「東書」「大修館」が良いと思います。佐藤委員もおっしゃっていましたが、まずは書面の見やすさでしょうか。子どもたちが何を

勉強するのか、どうすればいいのか、どうやって自生活に落とし込んでいくのかということが分かりやすく記載されているのが、この2者だと思いました。

また、「大修館」は、1年生26ページ、調和の取れた生活という章は、子どもたちに自分の生活をより良くしていこうという意欲が湧く内容になっていると思います。先ほど質問させていただきましたが、札幌市の子どもたちの課題として、スポーツをすることは好きだけれど実技の状況が低い、心と体が繋がっていると感じられる事業が必要だというので、「大修館」64ページには運動やスポーツの体と心への効果、運動することによってストレスの軽減や社会性が高まることが載っており、次の66、67ページなどでは、子ども達が自主的に自分の体力を高めることに意識が向く構成になっていて、非常に良いと思いました。

○阿部委員 私は「大修館」と「学研」と考えました。理由としましては、課題探究的な学習の取扱いというところで、「大修館」では、学習した後に意見を出し合ったり話し合ったりするなど、協働的な活動を促す作りになっていることが共感のポイントでした。「学研」についても、各セクションの右下に記載ある、「学びを生かす」の部分で、話し合ってみましょうと誘導している部分があったので、ここで学んだ後に、協働的な学びを通して最終的には個人にフィードバックするという作りになっている印象がありました。また、「学研」については、他の出版社でも扱っている内容ですが、がんの治療方法というセクションの記載がものすごく分かりやすく、2人に1人ががんになる時代と言われていきますので、そういう観点から、生活習慣病というところにも関連して、もしもがんになったときにはこういう治療法があります、ということを知りやすく記載いただいているところも、非常に共感できるポイントだと思います。皆さんからお話がありました「東書」についても、最後のスキルブックについては、非常に分かりやすくまとめられている印象がありますので、皆さんの意見に賛成をしております。

○山根教育長 ありがとうございます。皆さんのご意見を踏まえ、と、「大修館」「学研」「東書」の3者を選定候補とすることとし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 では、そのようにいたします。保健体育小委員会の委員長、ありがとうございました。

○山根教育長 それでは、次に、「道徳」について、審議を行います。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。

特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(なしと発言あり)

○山根教育長 それでは、道徳小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○道徳小委員会委員長 中学校部会、「特別の教科 道徳」小委員会委員長の桑原です。今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「教出」「光村」「日文」「学研」「あか図」「日科」の7者、計21点の教科書であります。「道徳」小委員会において、教育委員会が定めた「令和7年度から使用する中学校用教科用図書」の調査研究の基本方針に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので、御報告いたします。

まず、調査研究の観点Aである、「採択参考資料」を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。インデックス〔道徳・採択参考資料〕の道徳1ページをご覧ください。様式1【教科の目標】をご覧ください。道徳科の目標は、「道徳的諸価値についての理解」を基に、「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」を通して、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てることとされております。次に、道徳3ページをご覧ください。この中では、「様式2」の表中「取扱内容、内容の構成・排列」の、体験的な学習について、特長がみられましたのでご説明いたします。道徳科においては、動作化や役割演技などの体験的な学習を取り入れることで、自分自身の問題として深く関わり、道徳的価値について実感的理解につながるとされております。そのため、多くの発行者が体験的な学習を取り扱っております。ここでは、特長がみられた「東書」と「日文」についてご説明します。

スクリーンをご覧ください。まず「東書」についてご説明します。「東書」では、各学年のコラム「Plus」の中で、直前の教材文にある一場面を演じる活動が掲載され、それぞれの立場を演じてみて感じたことについて考えを深めることができる内容となっています。

次に「日文」についてご説明します。「日文」では、各学年の「学びを深めよ

う」の中で、教材文の一場面を演じる活動が掲載されています。その中で、学びを深めるヒントとして、演技を見るときや発表するときのポイントも掲載されています。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。インデックス道徳の〔道3〕ページをご覧ください。特別の教科 道徳においては、調査研究項目として、5つの具体項目について調査研究をいたしました。そのうち、特に特長がみられた1（1）と3（1）の2つの項目についてご説明いたします。まず、はじめに、1（1）「課題探究的な学習の取扱い」についてご説明いたします。この項目においては、「道徳的価値に関わる様々な課題について考えを出し合う、まとめる、比較するなどの話し合い活動や、その中で気付いたことや考えたことを表現する活動を通して、物事を多面的・多角的に考えるとともに、道徳的価値と自分との関わりについて考えを深めることが可能な内容となっているか。」という観点で調査いたしました。

この観点では、課題探究的な学習を進めるにあたり、1教材の教科書の構成と、年度初めの道徳科の授業開きについて特長が見られました。

まず、1教材の教科書の構成について特長がみられた2者についてご説明いたします。答申は、〔道3〕ページ、教科書は「東書」の第3学年と「光村」の第3学年をご準備ください。「東書」第3学年 155ページをご覧ください。

足袋の季節という教材でご紹介いたします。「東書」では、教材の冒頭に、本時の学習テーマ「自らの弱さと向き合って」と関連した1コマ漫画が掲載されており、授業の導入において、何をテーマとして学習をするのかについて見通しをもつことが可能となっております。また、ページをめくっていただいて、157ページをご覧ください。こちらには、「考えよう」「見つめよう」として、テーマに迫る問いや自分との関わりについて考える問いが示されるとともに、「ぐっと深める」として、自らの生き方について深く考える問いが示されております。

次に「光村」第3学年113ページをご覧ください。「光村」では、教材文の冒頭に、内容項目「よりよく生きる喜び」と記載されており、何をテーマとして学習をするのかについて見通しをもつことが可能となっております。また、ページをめくっていただきまして、116ページをご覧ください。こちらには、「考えよう」として、学習のテーマとともに、テーマに迫る問いが掲載されるとともに、「見方を変えて」「つなげよう」として、切り口を変えた問いや日常生活との関連を図る問いも併せて掲載されており、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えを深めることが可能な構成となっております。このように、1教材の教科書の構成として、授業の導入とテーマに迫る問いの構成について特

長がみられました。

次に、年度初めの道徳科の授業開きについて特長のありました者についてご説明いたします。「光村」第1学年、「学研」第1学年、「あか図」第1学年の教科書をご準備ください。

まず、「光村」についてご説明いたします。「光村」第1学年6ページをご覧ください。「光村」では、各学年の35教材のうちの第1教材が「道徳の学習をはじめよう」として示され、道徳科の学び方が3つのポイントやそれらを踏まえて巻末の小学校教材で学習することができる構成になっており、自らの変容を捉えることが可能な内容となっております。さらに、ページをめくっていただきまして、10ページをご覧ください。これから1年間で学習する内容が「道案内」としてテーマと共に掲載されており、1年間の道徳科の学びに見通しをもって取り組むことが可能な内容となっております。

次に「学研」第1学年8ページをご覧ください。「学研」では、巻頭に「道徳科で学ぶこと、考えること」として、考える方法や端末の活用の仕方、考えを深める4つのステップが取り扱われており、学習過程をイメージすることが可能な内容となっております。

次に「あか図」第1学年6ページをご覧ください。「あか図」は、各学年において、35時間のうちの第1教材が「道徳 はじまりの時間」となっており、道徳科において、何をどのように学ぶのかについて、漫画や詩などの教材文を通して考えることができ、1年間の学びについて見通しをもつことが可能な構成となっております。

次に3（1）「いじめに関する学習」の取扱いについてご説明いたします。この項目では、「いじめの問題に関わる学習活動を通して、いじめを自分のこととして捉えるとともに、いじめに向かわない態度や意識を育むことが可能な内容となっているか。」について調査研究いたしました。いじめについては、各者取り扱っておりましたが、特長のありました者についてご説明いたします。

「東書」第3学年33ページをご準備ください。「東書」は、各学年でいじめを直接的に取り扱った教材を3教材連続で取り扱っております。こちらの第3学年「いじめから目をそむけない」においては、いじめについて考える「中学生サミット」が取り上げられており、いじめを防止するために大切にすべきことについて、自分のこととして考えることが可能な内容となっております。

他に、「教出」「日文」「日科」について、教材文やコラムなどで、いじめの定義や法律について取り上げられておりました。

以上で、「特別の教科 道徳」についての調査研究報告を終わります。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○石井委員 4年前と比べて、各者インターネットや SNS に関する教材が増えてきた印象ですが、何か特長あるものを扱っている者があったら教えてください。

○道徳小委員会委員長 情報モラルについては目次の中に記載があるなど、各者重点的に取り扱っております。具体的な内容としましては、SNS トラブル、誹謗中傷、ネット依存や著作権などが挙げられます。例えば思いやり、感謝や礼儀に関する指導の際に、インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れています。遵法精神・公德心に関わる指導の際に、インターネット上のルールや著作権など、法や決まりに触れたりすることが考えられます。ただ、道徳科といたしましては、道徳的価値の理解をもとに自己を見つめる時間であるため、情報機器の使い方やインターネットの操作、危機回避の方法やその際の具体的な練習を行うといった手段については指導していないということになります。

○阿部委員 道徳の目標は物事を広い視野で見つめていくということで、多面的・多角的に考えていくためには、設問ごとにグループで協議をしていくことが非常に重要だと思います。先生の進め方や教材によるとは思いますが、その時間はだいたいどのくらいの時間があるのでしょうか。

また、それぞれの出版社によって、発問数がかかなり違うと思います。2つ程度で終わっている教科書もあれば、その2つをさらに深めていこうという教科書もあると思うのですが、そのあたり、どのように考えていったらよいのかという点も教えていただきたいです。

○道徳小委員会委員長 最初の質問といたしましては、1単位 50 分の授業で、まずテーマの説明があり、教材の範読を行います。その後、補助的な発問の後、道徳的価値に迫る中心的な発問をしながら展開していくことになるのですが、各授業者の考えとしましては、発問に対して子どもが考える時間を十分に確保するために工夫しているのが実情だと思います。何分と具体的に数字化することは難しいですが、多様な意見を引き出そうという工夫はされているものと思います。

発問数については、基本的には教科書の巻末、読み物教材の後についている発問を中心的に取り上げることになると思いますが、だいたい2～3が各者の平均になると思います。さらに、「見方を変えよう」や、「ぐっと深めよう」などの、より自分事に迫るような発問にも工夫して取り組まれるのかと思います。

○阿部委員 ありがとうございます。今スクリーンに映し出していただいている「光村」の教科書ですが、「考えよう」からさらに「つなげよう」に発展していくとすると、十分な討議の時間を確保するには、このボリュームでは多いという風に気にしなくても良いのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 授業する立場で考えると、この程度の数が必要だと思います。あまり多く発問していくと、焦点がぶれてしまうことがありますので、2、3個程度の発問が、考えを深めるためには効果的だと考えております。

○佐藤委員 本市でも大きな問題になっている、いじめに関する学習の取扱いですが、全ての者がかなりの重みをもって教材を配置されている、というふうに思いました。教材を通して学ぶことも重要なことだと思っておりますが、そもそも、「いじめ防止対策推進法」という法律が存在しているということ、その中で、いじめとはどういう行為なのかということ定義されているわけですが、このことを子どもたちに学習させることにも、非常に大きな意味を持っているのではないかと思います。そこで、「いじめ防止対策推進法」を取り上げて、いじめの定義を説明している者はどの者なのか教えていただきたい。

○道徳小委員会委員長 例えば、「教出」1年生 26 ページの注釈に項目が示されています。「日科」1年生 82 ページにも、法律の専門家の意見ということで、具体的な法によるいじめ定義などが掲載されております。その他、「日文」3年生ではコラムとして扱われています。いずれも教材の読み物の本文には出てこないのですが、コラムの扱いや注釈の扱いで掲載されております。

○佐藤委員 ありがとうございます。掲載されているのはこの3者ということですが、例えば道徳の授業の中で、「いじめ防止対策推進法」の扱いや定義については、どの教科書を用いても話すことにはなるのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 道徳の時間に限らず、何がいじめの行為にあたるのか

ということについては、様々な教育活動におきまして学校では事あるごとに取り扱っていると思います。ただ、道徳の時間としては、いじめを許さない、いじめを許さない心を作っていくなどの、こういった考えはいけませんという一義的なものではなくて、あらゆる角度から、いじめに対して迫り、いじめを生まない心を、時間をかけて育て上げるという考え方かと思います。

○中野委員 「日文」の教科書のみが、道徳ノートとして別冊を用意して、子どもたちが答弁した結果を書き入れるという体制になっておりますが、他の教科書を使っても、個々のノートに記載させるなどといったことはあるのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 別冊の扱いとしてはご指摘のとおり「日文」1者だけですが、QRコンテンツとしてワークシートを設定している者もあります。学校としては、別冊の有無に関わらず、1時間ごとの学習について記録を取り溜め、自己の変容が把握できるよう工夫しているところでございます。別冊の有無は、特段の影響はないとの意見が、小意見では出されていたところでした。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。

調査研究の観点A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」において、特長が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○道徳小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書といたしましては、「東書」「光村」の2者でございます。理由といたしましては、「東書」は授業の導入で学習テーマが示され、何を主題として学習するのかについて、見通しを持って読み進めることが可能な内容になっていること、それから、教材文の後に、「考えよう」「見つめよう」としてテーマに迫る問いが示されるとともに、「ぐっと深める」として、生き方に繋がる問いも示されるなど、考え、議論することが可能な内容となっております。

「光村」は、授業の導入で内容項目が示されているため、何を主題として学習するのか見通しをもつことができ、教材文のあとの「考えよう」では、学びのテーマと道徳的価値に迫る問いが示され、さらに、「見方を変えて」、「つなげよう」では、異なる視点の問いや日常生活につながる問いが示されており、多面的・多

角的に考えることが可能な内容となっております。2者とも札幌市が大切にしている、課題探究的な学習を推進することができる教科書であると考えます。以上の2点から、2者を挙げさせていただきます。

○山根教育長 ありがとうございます。特長が顕著であった教科書は、「東書」と「光村」とのことでした。2者とも学習の見通しを持ちながら読み進める工夫と、様々な視点から考えを深める工夫がなされているということであります。このことも含めて、皆様からご質問やご意見がありましたらお願いします。

○中野委員 各者1年で30～35くらいの教材を扱っているのですが、課題の数が多すぎると討論の時間が取れないということはあると思います。教科書に出ている課題は全て授業で扱うということになるのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 教材として扱う読み物教材の数は、道徳の年間授業時数が35時間であるため、35の教材は各者とも掲載されています。そのほか、コラムや詩、漫画といった補助教材のページもありますが、それらはたくさん掲載されていて、全て扱うことができるかと言われると、教材についての考えを深めるということから考えると、全てのコラムや補助的なものを扱う時間を十分確保することができるとは限らないと思います。

○中野委員 各者、似たような題材を選んでいると思いますが、各者の教材の多様性といいますか、課題探究しやすい題材や特長はあるのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 例えば、「2通の手紙」という教材は全者で掲載されています。このように、全ての者で扱っている伝統的、定番な教材はあります。「足袋の季節」も6社で掲載されています。道徳の学習指導要領で示されている内容項目は22あるのですが、そちらは全ての者において扱っているということになります。

○中野委員 そうすると、必要な單元には全て触れているため、各者異なる内容もありますが、教材をどう使うかということは、教科書に載っている項目を省くということではなく、補助教材については自習させる、授業では直接扱わない、として支障なくやっているということでしょうか。

○道徳小委員会委員長 そのとおりでございます。コラムや補助教材は必ずしも扱うものではないと考えます。

○佐藤委員 各者よく工夫されていて、それぞれの特長があって、大いに迷うところです。その中で、「光村」は残していいと思います。「光村」は、冒頭に「答えは1つではない」と明記していて、各教材の「考えよう」「やってみよう」といったコラムが非常に特長的で安定していると思います。それから「学研」の、4ステップの「深めよう」というのがいいと思っているほか、子どもに考えさせる題材が多いなという印象です。全体構成もよくできていると思います。私からはこの2者を推したいと思います。

○中野委員 私は、現在も採用していて安定していらっしゃるということで「光村」は残したほうがいいかと思えます。「学研」は良い題材が揃っていると思っており、「日文」もバランスが良くて捨てがたいところです。そのため、私は「光村」「学研」「日文」の3者が良いと思います。

○石井委員 私は「東書」「光村」が良いと思いました。どちらも課題探究というところで、学習の見通しがしやすく、「東書」の導入部分が分かりやすいと感じました。個人的には「光村」に気持ちが傾いておりますが、多面的・多角的に物事を考えることができるのではないかと思います。「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」という発問が非常に良いと思いました。先ほど、情報モラルについて質問させていただいたときに、あくまで道徳は自分を見つめる時間ということで、「見方を変えて」として、自分に対して発問される、違う視点から考えるということがあると、子どもたちはより自分の中で、どうやって生きてらいいのかといった価値観につながっていくのではないかと思います。「光村」の教材で共感を持っているのが、2年生158ページの「2番目の悪者」という教材です。動物が擬人化されている教材ですが、物語を読んだ後、「見方を変えて」「つなげよう」のところに、SNSなどを利用するときに今日の学びを思い出してみようという発問があつて非常にいいと思いました。情報モラルにもつながると思いますが、物語を読んだ後に、さらに自分の実生活に自分が感じたことを落とし込んでいくということが恐らく中学生にはできると思うので、こういった発問が「光村」の教材には多々あつて、非常に好感をもっています。以上です。

○阿部委員 私も皆さんと同じ「光村」と思っておりまして、先ほど委員長にも

ご質問させていただいたのですが、みんなで協働して話し合う時間をできるだけ十分に確保したいと考えています、ということでした。まず「考えよう」というテーマが2つくらいあって、それ以外に「見方を変えて」「つなげよう」という、議論が深まる内容を用意していただいているというところでは、課題探究というところが特にいいと思っています。もう1者は「東書」です。体系的な学習活動というところでは、「プラス 役割演技」という題材があり、子どもたちがどこまでの演技をされているのかは分かりかねるのですが、そのような題材があることで、やってみようという前向きな気持ちにはなってくれるのではないかと、ということから、この2者と考えました。先ほど佐藤委員から質問がありました、いじめ問題についての法律の専門家の意見というところで、「いじめ防止対策推進法」について丁寧に記載していただいているのが「日科」82、83 ページです。ここまで丁寧に記載のある教科書は他にはないと思うので、ここはもう少しじっくりと検討する余地があると感じております。

○山根教育長 皆さん、「光村」については選定候補として挙げていらっしゃいました。その他についてはご意見がいくつか出ていたのですが、「光村」以外の各者の部分について、改めてご意見をいただきたいと思います。

○佐藤委員 選択肢がさらに増えてしまいましたが、コメントとして、「日科」は先ほどの「いじめ防止対策推進法」の記載だけではなく、非常に考えさせる題材が多い印象です。発問自体にはそれほど特長はないと思いますが、取り上げている教材自体がある意味問いかけになっており、教材に特長がある者だと感じました。

○中野委員 私は「日科」の教材の後の問いが非常に簡素で、ここをどう考えたらいいのかという教員の工夫が必要で、使うのが難しいと正直に思いました。

○道徳小委員会委員長 そのあたりは小委員会でも大変時間をかけて検討したところですが、「日科」の特長としましては、目次をご覧になると分かるのですが、配列がテーマごとに、A：自分自身と向き合う、B：人との関わり、となっていて、教員の立場としては、自分で順番を考えて指導していかなければいけないようになっていきます。

それに対して、「東書」や「光村」の場合は、目次どおりに進めていくと、一通りといいますか、順番に大事なことに触れていけるという特長があります。指

導者としては、目次どおりに進めていけると、見通しがもちやすいですし、他の学級でも同じような順番でやっていけるので、私たちの立場としては使いやすいなと思います。

○山根教育長 「光村」以外で申しますと、「学研」について、佐藤委員、中野委員から、「東書」について、石井委員、阿部委員から意見がありました。「日科」についても佐藤委員、阿部委員から発言があったことから、今の段階では7者を4者に絞るといふことでいかがでしょうか。

○佐藤委員 先ほど、委員長から使いやすさという観点からの説明もありましたので、「東書」「光村」「学研」の3者でよろしいのではないのでしょうか。

○山根教育長 それでは、「道徳」については、「東書」「光村」「学研」の3者の教科書を、選定の候補とすることとし、8月5日（月）に引き続き審議を行い、それぞれ1者を決定するといふことでよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 では、そのようにいたします。道徳小委員会の委員長、ありがとうございました。

○山根教育長 それでは、ここで10分間の休憩といたします。

（休憩）

○山根教育長 では、次に「数学」について審議を行います。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○山根教育長 それでは、数学小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○数学小委員会委員長 中学校部会、数学小委員会委員長の原田です。

今回、調査研究の対象となったのは、「東書」「大日本」「学図」「教出」「啓林館」「数研」「日文」7者、計21点の教科書です。数学小委員会において、教育委員会が定めた「令和7年度から使用する中学校用教科用図書」の調査研究の基

本方針」に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので報告いたします。

はじめに、調査研究の観点Aである、北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果について説明いたします。

インデックス採択参考資料数学の〔数学1〕ページを御覧ください。「数学の目標について」の欄にありますように、数学科では、学習指導要領において、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力」を育成することが目標とされております。

次に、〔数学3〕ページの様式2を御覧ください。様式2のうちの、観点「使用上の配慮等」の第2項目「主体的に学習に取り組むことができるような工夫」について各者の特長がみられました。この項目については、どの者にも、様々な特徴がありましたが、子どもの主体的な思考を促すための工夫という観点において特徴が見られた3者について、画面で説明しますので、スクリーンを御覧ください。こちらは、「東書」1年p175ですが、「Q（調べてみよう・考えてみよう）」という大きな発問の下に、①、②と「補助発問」が示されており、それを手掛かりに学びを進めていく構成になっています。

一方、こちらは、「学図」1年p172ですが、先ほどの「東書」は、「～でしょうか」という教師の問いかけの形で教科書に示されていましたが、「学図」は、生徒のキャラクターの「～だね」「～かな」という吹き出しにより、子どもが自ら疑問を発見できる構成になっています。

続いて、こちらは、「教出」3年p144ですが、「教出」は、「もどって確認」など、これまでの学習内容を振り返る記述が多数見られ、それを手掛かりに学びを進めていく構成になっていました。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」について説明いたします。答申〔数2〕ページを御覧ください。

数学においては、調査研究項目として、計4項目について調査研究を実施いたしました。そのうち、まずは、1の(1)「課題探究的な学習の取扱い」については、特に各者の特長が見られましたので、説明させていただきます。答申の〔数3〕の上段を御覧ください。この観点では、「自ら疑問や課題を見だし、主体的に解決することが可能な内容となっているか。」について調査しました。

まずは、章のとびらや導入部分に特徴のあった4者について画面で説明しますので、スクリーンを御覧ください。こちらは、「東書」1年p63ですが、章のとびらでは、学ぶべき内容が「数学のことばを身につけよう」などの文章で示されています。次のページでは、日常や社会の事象に関連のある問題が掲載される

とともに、学習課題が「？」として示されており、その後の学習の見通しをもつことが可能な構成となっています。こちらは、「学図」1年 p95 ですが、子どもたちのやり取りの下に、先ほどの「東書」と同様に、章のテーマとなる発問が「？」として示されており、章を通しての課題を見だし、学びの見通しをもつことが可能な構成となっています。

一方、こちらは、「日文」1年 p91 ですが、既習事項とのつながりやその章で何を学ぶのが文章で掲載されておりました。こちらは、「大日本」1年 p164 ですが、マンガの描写やゲームなどを用いて課題が設定されているものがあるなど、生徒が興味・関心をもつことが可能な内容となっていました。

続いて、学びのプロセスに特徴のあった4者について画面で説明しますので、スクリーンを御覧ください。こちらは、「学図」1年 p12 ですが、学習の初めの「Question」では、学びを進める上での手掛かりとなる生徒同士のやり取りや、数学的な見方・考え方を働かせるためのヒントとともに、「目標」が示されており、学びの見通しがもてる構成になっています。1枚めくって、p14の下になりますが、「どんなことがわかったかな」「次の課題へ！」により、それまでの学習の過程を振り返って概念を形成するとともに、次の学びにつながる新たな課題を見出すことが可能な構成となっています。こちらは、「教出」3年 p164～165 ですが、新しい学習の導入である「Q」では、「どのようにすると求められるかな？」など、学習内容が明示されるとともに、先ほどの「学図」と同様に、学習の過程が「？（はてな）」「！（なるほど）」「！？（だったら）」の流れで構成されており、生徒が学びのプロセスを意識することが可能となっています。

一方、こちらは、「数研」3年 p93 ですが、新しい学習のきっかけとなる「Q」や「TRY」では、生徒同士や生徒と教師の会話が多く掲載されており、それらを手掛かりに解決することが可能な内容となっていました。

こちらは、「啓林館」2年 p41 ですが、数学的な見方・考え方を働かせる場面には、文章に下線が引かれるとともに、「たいせつな考え方」の標識が置かれていました。

次に1の(2)「数学を学ぶことの意義や有用性を実感する学習の取扱い」について説明します。答申の〔数5〕の上段を御覧ください。この観点では、「数学で学んだことを日常の生活や様々な学習に生かそうとする態度を養うことが可能な内容となっているか。」について調査しました。この項目については、どの者にも、様々な特徴が見られましたが、まずは、日常生活とのつながりという観点において、特に特徴が見られた「東書」について、画面で説明しますので、スクリーンを御覧ください。こちらは、「東書」1年 p149 ですが、「深い学び」で

は、ポップコーンを買うための待ち時間を予想する問題など、日常生活の中で起こり得る課題が設定されており、具体的な場面設定とそのイラストにより日常を想起するとともに、見通しをもちながら、既習事項を活用して問題を解決する過程を通して、数学を生活に生かそうとする態度を養うことが可能な内容となっていました。

次に、社会とのつながりという観点において、特に特徴が見られた2者について、画面で説明しますので、スクリーンを御覧ください。こちらは、「東書」2年 p156～157 ですが、「数学×様々な職業」では、ロボット開発には図形の性質を理解し活用することが重要であることなど、その職業に就ききっかけやその職業で活用されている数学的内容が紹介されており、数学が社会に根付き、活用されていることを実感するとともに、数学で学んだことを様々な学習に生かそうとする態度を養うことが可能な内容となっています。こちらは、「大日本」1年 p162～163 ですが、「活用・探究」では、初期微動継続時間が震源までの距離に比例していることなど、章で学んだことが他教科の学びや日常生活で活用できることが掲載されるとともに、「社会にリンク」では、防災科学技術の研究者を取り上げ、緊急地震速報に数学が重要な役割を担っていることなど、その章で学んだことを活用する職業が紹介されており、数学を学ぶことの意義や有用性を実感できる内容となっていました。

以上、調査項目3点において、特に特長が強く見られた教科書の該当部分について説明いたしました。そのほかの特徴につきましては、お手元の資料を御覧ください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○山根教育長 それでは、各委員から、今の説明に御質問がございましたら、お願いします。

○中野委員 実際の授業で教員が板書をすると思うのですが、今の学校ではどの程度しているのでしょうか。視聴覚教材を使用して板書はあまりしていないのでしょうか。実態はいかがでしょうか。

○数学小委員会委員長 教師によってだいぶ違うと思いますが、板書をしなくなっているわけではなく、いろいろな研修場面で板書の効果は検証されておりますので、必要に応じて行っておりますが、デジタルコンテンツや一人一台端末を利用しながら、子どもたちが自力で学習して考えをもったことを画面上で照らして共有するということが授業で行っております。また、教師が発問したり、

授業の中で新たな課題等を見いだして、教室全体で広く学び合おうというときは、板書も必要になりますし、当然最後のまとめの場面でも、数学科として必要な部分については、板書を使うことが有効だということで、現在も使っております。

○中野委員 ノートの取り方・工夫について書いているのが「啓林館」で、学年ごとに書いておりましたが、他のところでは板書についてあまり触れられておらず、1者しかノートの取り方が記載されていなかったのも、あまり使っていないのかという印象がありましたが、そういうわけではないということでしょうか。

○数学小委員会委員長 そういうわけではありません。

○中野委員 ノートの取り方を教えてくれるのがいいかなと思いました。

○石井委員 学図と啓林館に載っています。

○数学小委員会委員長 補足で申し上げますと、ノートについて書かれている教科書発行者もありますが、それとは別に学び方という点については、各者工夫されており、学び方の道筋を示している者はあったかと思えます。

○中野委員 円周率については、3.14を短くするといういろいろな議論がありました。今どこに落ち着いたのでしょうか。

○数学小委員会委員長 数学では $\pi$ を使っています。小学校では一時期3にするという報道もあり、実際計算を見積もるときは3として扱うこともありますが、3.14でやっていることが多いと思います。中学校の数学科としては3.14という数字を使わずに、ほとんどは $\pi$ で行っています。

○中野委員 細かい下何桁の数字は意味ないのではという議論があったと思いますが、教科書に説明があって、「啓林館」1年生177ページに $\pi$ の下が実際には使っているということが記載されており、車のタイヤや宇宙開発のときは、15桁まで使っているという具体的な数字が書いてあり、非常に細かいところまで実際使っているということに興味がありました。

○石井委員 「東書」、「学図」、「教出」で、適宜学習内容を振り返ったりとか、目次を拝見しても小学校で学んだことが書いてあったりして、今まで習ったことを振り返りながら学んでいくことができる教科書だと思いますが、振り返りながら学んでいける効果があったら教えてください。

○数学小委員会委員長 小委員会のほうでも、9年間の学びという点については話題に挙がっております。おっしゃっていただいたように、小学校算数との接続の配慮という部分でいきますと、各者1年生の巻末に小学校算数の学習内容がまとめて示されるなど、工夫して配慮されていると思います。特に学図と教出については、本文中に小学校算数で学んできたことや見方・考え方が随所に示されていますが、中学校の学びにつなげる構成になっていて、生徒が小学校の学習内容を根拠として、問題解決を進める際に活用するということができると思います。特に中学校の数学の関数や統計に関することは小学校で学んだことを中学校の数学に結び付けていくというあたりで工夫が必要になるところでありますので、小学校との接続について強調して示されているのは、どの者も工夫されていると思っております。それだけ強調されているということは小学校での基本的な学びが中学校、特に1年生において、中1ギャップを生まないためにも大変有効であると考えております。

○阿部委員 今、委員長から中1ギャップを生まないためにという話があり、小学校の時代に算数が苦手なお子さんに対して、中学になった時に苦手意識を克服できるような構成が重要になるかと思いますが、1年生の教科書において工夫や特徴があれば、教えてください。

○数学小委員会委員長 数学が苦手な子に配慮ということですが、各者において数学が苦手な子でも取り組めるように、様々ヒント的なものが示されています。振り返りながら取り組めるよう、既習の内容を直接的に示しているものや「～だよ」、「～がいえね」、という吹き出しがヒントになっている教科書もあります。東書のように、問題解決の間に補助発問が示されておりまして、思考に行き詰った際の次の一步につながるヒントと言えます。

①、②は補助発問になりまして、特長的です。学図は「～なのかな」、「～はどうだろう」という、問いを投げかけたり、別の考えを促したりする吹き出しがあり、自ら疑問をもったり、学びをつなげていけるようなヒントになっておりま

す。

○山根教育長 阿部委員の質問に関連してですが、数学的思考が苦手な、数字をみるのも嫌な子どもに、数学が社会にでてどういう風に役立つかという理解していただく取組は、「教出」は数学仕事人のような、気象予報士やジャーナリストの話を引き合いに出しておりますが、そのような工夫は他者でもされている箇所ありますでしょうか。

○数学小委員会委員長 どの者も身近な題材をもとにした職業との関連を示すなど、数学と日常生活のつながりを大切にしており、どの者も力をいれていると小委員会でも話が出ておりました。

「東書」は教科書のテーマがマスコネクトとなっております、数学と身の回りや社会とのつながりに力点を置いていたという印象です。

○中野委員 小学校から中学校へスムーズに移行してできない子もよく理解させるという観点と中学校から高校へスムーズに行くという二つがあって力点が違うかと思います。「数研」は明らかに高校との連携を重視して、練習問題も難しいです。「啓林館」も練習問題に実際の入試問題もいれて、やや難しいと思います。「日文」も発展的な内容もあって、この3冊は中・高の連携に力点をしているように思います。

他は小・中との連携ということで、少し毛色が違うと思います。札幌市としては、小・中と中・高だと、どちらの教科書が実際に使いやすいのでしょうか。

○数学小委会委員長 中々難しい質問ですが、小委員会では、先ほど示しました4観点について、どれも大事なのですが、おそらく教科書発行者としては、小・中に力を入れているのかなという印象があります。中・高が大事だということで、特長的な者はありますが、小・中に重きを置いているという印象がありました。どちらが授業をやる上では、中学校教師としては、入試のこともあるので、予測のつかない未来社会といえ、点数を取るだけとか、高校に入るためだけでなく、子どもたちが幅広い力を身に付けられるようにするという観点で授業をしていきますので、兼ね合いは難しいのですが、まずは小学校とのつながりを大事にして、それを発展させる形で中学校、さらに、その上を目指すということになります。どちらかに力点ということはありませんが、まずは小学校からということから始まるかと思います。各者、中1の教科書に色が出ていると思います。

○中野委員 数研はチャレンジ編とか、高校への発展とか、明らかに中・高と思います。また、練習問題の難易度も多少難しく、どっちとも大事だけど、札幌市は真ん中をいくのか、どちらかに寄るのか、どうしようかと思っております。文系でも数学の力が必要だということで、文系にいけば数学をやらなくてもいいとはならなくなっており、数学は社会的に必要なになっております。標準的な内容をいれるものか、非常に悩ましいと思っております、お聞きしたところですが、中々答えづらいということですね。

○義務教育担当係長 指導主事の三浦です。小・中・高のつながりということで、高校につながるような問題の掲載ということで「数研」が挙がりましたが、学んだことにつながりということで特長があったのは「東書」です。

中学校で学んだことを高校にいけばどのようなようにつながるかという視点で、高校にいけばこのように学ぶ、という学びのつながりを意識しているページがありました。

また、「学図」は同じく関数のところで中学校で学んだことを高校へつなげていくということで、中学校では放物線は原点を通るものしか扱っていませんが、原点からずれたような、高校で扱うような関数を紹介しているページがありまして、中学校の学びをつなげるという点においては、様々工夫をされているところかなと思います。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」に沿った調査研究において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○数学小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は、「東書」「学図」「教出」の3者でございます。理由といたしましては、この3者は、教科書の随所で、小学校で学んだ学習内容との関連を図りながら疑問を生んだり、生徒自らが見方・考え方を働かせて課題を見いだしたり、主体的に学びに向かったりすることが可能な構成となっております。

「東書」では、日常生活の中で起こり得る課題が設定されており、具体的な場面設定とそのイラストにより日常を想起するとともに、見通しをもちながら、既

習事項を活用して問題を解決する過程を通して、数学を生活に生かそうとする態度を養うことが可能な内容となっていました。

「学図」では、学習の初めの「Question」で、学びを進める上での手掛かりとなる生徒同士のやり取りや、数学的な見方・考え方を働かせるためのヒントなどが、一連の流れで数多く示されていました。さらに、一連の学びの最後には、「どんなことがわかったかな」と「次の課題へ！」が示されており、それまでの学習の過程を振り返って概念を形成するとともに、次の学びにつながる新たな課題を見いだすことが可能な構成となっていました。

「教出」では、新しい学習のきっかけとなる「Q」において、「式で表してみよう」「計算できるかな？」など、学習内容が明示されるとともに、学習の過程が「? (はてな)」→「! (なるほど)」→「!? (だったら)」の流れとなっており、生徒が学びのプロセスを意識することが可能な内容となっていました。以上の点から3者を挙げさせていただきます。

○山根教育長 ただ今の意見によりますと、特長が顕著であった教科書は、「東書」「学図」「教出」とのことでした。このことも含めて、皆さんからご質問やご意見がありましたらお願いします。

○佐藤委員 私も「東書」、「学図」、「教出」と思っていました。「東書」については、調べてみよう、考えてみようという指示部分と抽象度の高い法則としてまとめる部分の列が明確にわかる色使いで教科書が構成されていて、使いやすいのだな、あるいは学習者が手に取ったときに、見やすい教科書だなと思いました。

それから、「学図」と「教出」については、先ほども詳しく確認がありましたが、学図には冒頭に振り返りがあって、「教出」は学習する前という小・中事前学習とこれからやる学習のつながりが示されているのがいいと思いました。特に教出のほうで、日常とリンクした問題や例は各者にありますが、教出の日常とリンクした例、問題が面白く、取り組みたいと思われるような例が出ていたので、その点で教出は評価できると思いました。

○中野委員 分かりやすく説明されており、小・中の関連を考えると、「学図」、「教出」を選びました。

もうひとつどうするか悩みましたが、私は「啓林館」を推したいと思います。

ノートの取り方の工夫を見開き2ページにわたって、きれいにまとめられていて、「学図」にもありますが、1ページちょっとになっております。「啓林館」は2ページにわたってきれいなノートの取り方がまとめられております。大学でも、視聴覚教材だけを見ていて板書をとらないという人が増えてきたので、こういうノートの取り方を強調していくのがいいのかなと思いました。

問題がやや難しいものも入ってきて、どちらかというところと小・中の連携というよりは、やや標準レベルをあげるというつくりになっていて、できない子に教えるという面では使いづらい印象ですが、社会的に数学を必要だということになっているので、「啓林館」を対象にいれてもいいのかなと思っております。4者選べないので難しいところですが。

○山根教育長 選べないということではないです。

○中野委員 4者選べるのであれば、「学図」、「東書」、「教出」、「啓林館」としたいと思います。「教出」は説明が非常に工夫されていて、大変分かりやすく、理解しづらいところも説明が詳しいという点で評価できるのではないかなと思います。

○石井委員 私は「東書」、「学図」、「教出」がいいのではないかと思います。この3者を見てみると、子どもの数学を学ぶ意欲でしたり、課題探究的な部分で、非常に発問、各章の疑問を発見するようなページが分かりやすいなと思いました。

先ほど質問させていただきましたが、3者既習内容や小学校との接続という意味でも非常に子どもたちが学びにつなげていけるような工夫がされているのではないかと思います。

○阿部委員 皆さんと同じ、「東書」、「教出」です。課題探究的な学習の取扱いというところでは、特に教出の学びのプロセスというところが非常に分かりやすい構成になっているなという印象を受けました。「東書」は全体的にビジュアル的な伝え方という意味では、他の教科書と比較すると非常に長けているなど。苦手なお子さんに対しても、ビジュアル的な要素から親切な作り方になっている印象を受けました。

もう1者は中野委員と同じなのですが、「啓林館」についても、課題探究的な学習の取扱いという点においては、ステップ1、2、3という形の作りこみをし

ており、私としてはこの3者と思っております。

「学図」が悪いというわけではないのですが、教科書の作りの部分で「Q」が大きくて、個人的な意見になります。逆に見づらいなという印象を少しもちました。「Q」が大きく左側に帯を作っているので目がいってしまって、個人的な意見ではありますが、それを考えると今回学図は候補から外させていただきました。

○山根教育長 複数の委員の方から名前が挙がった会社が4者ありました。「東書」、「学図」、「教出」、「啓林館」ですが、本日はこの4者を選定候補にするということによろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 それでは、「数学」については、「東書」「学図」「教出」「啓林館」の教科書を、選定の候補とすることとし、8月5日(月)に引き続き審議を行い、それぞれ1者を決定するというによろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 では、そのようにいたします。数学小委員会の委員長、ありがとうございました。

○山根教育長 では、次に「理科」について審議を行います。その前に、私から小委員会委員長に、確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「なし」と発言する者あり）

○山根教育長 それでは、理科小委員会の委員長、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○理科小委員会委員長 中学校部会、理科小委員会委員長の三浦でございます。今回、調査研究の対象となったのは、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「啓林館」の5者、合計15点の教科書です。これらについて、教育委員会が定めた調査研究の基本方針に基づき、理科小委員会において、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aの結果についてご説明いたします。

理科の採択参考資料をご覧ください。採択参考資料では、理科2ページから、理科18ページまで調査研究結果を示しております。そのうち、二つの項目について各者の特長が見られました。

一つ目は、理科2ページ～理科11ページの様式2の使用上の配慮等の1番目に示されております「導入の工夫」についてです。理科においては、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することが重視されております。そのためにも、生徒自らが主体的に探究を進めるきっかけとなる「授業の導入」が重要であることから、この特徴を挙げました。

「東書」2年16ページをご覧ください。各節の導入に生徒の主体性を高める問いかけ「問題発見 レッツスタート」が設定されております。ここでは、ホットケーキがふっくらしている原因について、イラストで分かりやすく提示されており、そこから、「炭酸水素ナトリウムを加熱するとどのような変化があるか」という課題を設定しやすいような内容になっております。東書はこのようにイラストで分かりやすく説明している解説等が、各所で見られます。

「啓林館」2年140ページ・141ページをご覧ください。どら焼きとカルメ焼きの断面や材料から共通点に着目しながら、それぞれの疑問について話し合い、そこから、「炭酸水素ナトリウムを加熱するとどのような変化があるか」という課題を自ら設定できる内容になっております。この他にも、スクリーンに移している3年82ページにあるように、月や金星の満ち欠けを学ぶ章の導入で、何気ない1枚の写真ですが、よく見ると月とボールの光の当たり方が同じことから、太陽と地球と月の位置関係について疑問をもち、自ら課題を見いだすような写真になっています。啓林館では、このような写真や図表を用いた効果的な導入が各所に見られました。

理科14ページ～理科18ページの様式4の調査項目③「北海道とのかかわりのある内容」についてです。理科において、生活の場である札幌や北海道の自然環境の実態を把握し、その特性を生かすことが重要であることから、表中の(1)の北海道とのかかわりのある内容を特徴として取り挙げました。

「教出」3年274ページをご覧ください。自然環境や科学技術と私たちの未来」の自然災害に関する学習において、導入で石狩平野が、地上から見おろした図で掲載されており、その後278ページでは「札幌市北区の洪水」に関するレポート例を紹介するなど、札幌市における自然災害への対策について、理解を深め

ることが可能な内容となっています。他社においても、札幌市や北海道の内容が掲載されておりますが、特に教出のこのページは、札幌市に関わる内容が具体的に示されているためご紹介しました。

次に、調査研究の観点Bについて説明いたします。答申のインデックス理科の理2ページをご覧ください。

ここでは三つの項目を取り挙げてご説明いたします。

・最初に1-(1)「課題探究的な学習の取扱い」についてです。この観点では、自ら疑問や課題を発見し、見通しをもって、仮説を設定・検証するなど、科学的な探究の過程を通して学ぶことが可能な構成となっているかどうかについて調査しました。

まずは、「見通しをもつこと」についてです。

「大日本」2年158ページをご覧ください。全学年の単元の導入において、「これまでに学んだこと」と「これから学習すること」が示されており、ここでは、小学校で学んだ電流や磁石の既習内容を振り返りながら、「電流とその利用」という単元の見通しをもって学ぶことが可能な構成となっています。

「学図」3年65ページをご覧ください。全学年の単元の導入において、「学びのあしあと」として、単元を貫く課題が、「振り返ろう・つなげよう」に既習内容が掲載されるとともに、単元を通してできるようになりたい目標を「Can-Do-List」として掲載されており、身に付けたい資質・能力を意識して学習を進めることが可能な構成になっています。

「教出」1年6ページをご覧ください。全学年の章の導入において、「これまでの学習」の具体が示され、章を通しての課題が「学習前の私」として示され、章の終わりの21ページには、要点とともに「学習後の私」として課題に対して自分の考えを整理するなど、学習前後の自己の変容を実感しながら探究を振り返ることが可能な構成となっています。このような、学んだことを振り返り、自己の変容を実感できるような特徴は、東書、啓林館にも見られました。

次に、「生徒が仮説を設定・検証する学習活動」です。「東書」3年154ページをご覧ください。ここでは、「じっくり探究」が設定されており、水中ではたらく浮力について、二枚の写真から問題を発見し、課題設定後に、浮力が変化する要因が「体積なのか、質量なのか、水の深さなのか」自ら仮説を立てて探究を行う流れになっており、仮説を基に調べ方を考えて観察、実験を行い、結果を分析しながら学ぶことが可能な構成となっています。このような「じっくり探究」は各単元に一つ設けられています。

「啓林館」1年14ページをご覧ください。ここでは、導入で身近な野菜をな

かま分けし、他者との交流から様々な仲間分けの方法が存在することに気づき、そこから生物の分類はどのような観点や基準を用いることが適切か仮説を立て、「探Q実習」をしていきます。巻末の探究シートにある20種類の生物カードや、身の回りの生物を探して採取したり、ICTを活用して調べたりと、様々な方法で探究することが可能になっている。また、17ページには、「発表してみよう」が示されており、他者と考えを伝え合う活動から、自分の考えを深めることが可能な構成となっています。

このような「探Q実習または実験」は各単元に一つ設けられています。また、「大日本」や「教出」にも同じように探究の過程を意識した内容が、それぞれ各単元に一つ設定されていました。

続いて、二つ目の調査研究項目は、1-(2)「理科を学ぶこと意義や有用性を実感する学習活動の取扱い」についてです。「東書」2年20ページをご覧ください。

化学変化がもとの物質とはちがう物質ができる変化であることを学んだあとに、ページの下部にある「学びをいかして考えよう」の中で、水が氷になる変化について説明する内容が示されています。このように、学習の終わりに、学びを日常生活に活かして考えることが可能な内容となっております。

学図3年237ページをご覧ください。全学年の巻末に「補充資料」という、資料集のように豊富な情報が掲載されています。242ページのような読み物が豊富に掲載されており、それぞれ子どもが学習に活用することで、主体的に探究しようとする態度を育むことが可能な内容となっています。

「啓林館」2年148ページをご覧ください。ここでは、ホットケーキやどら焼きが炭酸水素ナトリウムによって膨らんでいることを、探究を通して学習した後、空気が温まって膨らむ餅との違いについて、考える小課題が設定されており、日常生活と結び付けながら解決することを通して、学びを深めることが可能な内容となっています。

・このように、結論が明記されていない「Action」は、その後の152ページや154ページに見られるなど、全学年の各所に掲載されており、学んだことを活用したり、授業の導入に使ったりするなど、自由度が高く様々な活用につなげることができる内容となっています。

最後に三つ目の調査研究項目、2の(1)「多様な学びや考えが位置付く学習活動に関する取扱い」についてです。ここでは、仮説を設定した後に、どれくらい多様な学びが展開できる内容か、どれくらい他者との協働を通して自分の考えを再構築しながら学ぶことが可能な内容か、という視点で調査しております。

「東書」1年85ページをご覧ください。ここでは、白い粉末の区別する探究が設定されており、自ら仮説を立てて、実験の計画を立てていきます。88ページの「検討改善」においては、実験方法や結果の振り返りを行いながら、他者との交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることが可能な内容になっています。このように探究の過程を振り返る「検討改善」や「分析解釈」が随所に設定されています。

「学図」1年53ページをご覧ください。白い粉末の区別する探究の中で、「理路整然」というコラムが掲載されており、ここでは、結果に基づいて考察を考えることについて紹介し、思考の流れを整理しながら学習することが可能な内容になっています。

「啓林館」3年23ページをご覧ください。ここでは、遺伝のモデル実験を進めながら、考えられる遺伝子の組み合わせの出現確率から規則性を見いだす学習において、モデル実験には、カードやトランプ、割りばしなど、いくつかの例が示されており、自ら多様なモデル実験を計画して調べることが可能となっています。また、23ページでは探究を振り返り、自分自身の仮説や計画について妥当だったかを検証し、学びを再構築することが可能な内容になっています。以上、理科の答申の概要について説明させていただきました。

○山根教育長 それでは、各委員から今の説明にご質問がございましたら、お願いします。

○佐藤委員 探究の流れについて、各社ほぼ同じような形で記載がありますが、「東書」のみ、例えば酸性・アルカリ性の水溶液にそれぞれどのような性質があるのだろうか、という章のクエスチョンに対し、そのまとめを学習者に任せております。クエスチョンに対する自分の考えをまとめようとキーワードが埋められておりますが、実際にまとめるのは子どもたちというパターンになっています。他の4者は結論まとめの部分は教科書内の文章で示されているという構造になっております。これは「東書」の非常に大きな特徴かと思いますが、実際の授業に子どもたちにまとめさせるということについて、メリット・デメリットについて教えていただきたいです。

○理科小委員会委員長 クエスチョンマークが「東書」にあるということで、クエスチョンマークと一緒に感嘆符エクスクラメーションマークが後ろにあるので、その間に学習の過程を自分の考えをまとめるというその一部になる記載が

はいていると思います。学習者が課題に対する自分の考えを主体的に振り返るきっかけになると考えております。ですので、そこはそれで大丈夫なのかと判断しております。

「学図」においてはまとめ、「教出」においては結論として明確に示されているのが特徴ではありました。「啓林館」では課題設定や課題解決の場面で考えようが各所に設定されており、視点が焦点化して自分の考えを振り返ることができる内容になっております。

○阿部委員 理科については実際に実験ができる科目と教科書から学ばなければいけない部分があると思うのですが、実際の活動を通して、グループ活動を促している教科書とそうではない印象を受けた会社があり、グループ活動が豊富に掲載されているなどありましたら教えてください。

○理科小委員会委員長 主に理科は探究ということで実験が多いのですが、実験の量についてそれほど大きな差はないのかと思います。実験のアプローチの仕方などは多少違いがあるのかなと思います。例えば、課題がしっかり書いてあって、その答えがあるもそうですし、課題がはっきり書いているものもあれば、そうでないものもあります。先ほども説明させていただきましたが、月と太陽の関係も、子ども達に考えさせながら、課題をアプローチするとか、はっきり書いているものもそうですが、子どもたちの考えによって課題に対するアプローチの仕方があるなど、アプローチの仕方は違いますが、実験に関しては、どの者に関しても大きく変わりはないかなと思います。

○阿部委員 グループ活動、協働で学ぶ姿勢について、各者特徴があれば、教えてください。

○理科小委員会委員長 例えば白い粉の実験の分けるということを説明させていただきましたが、大きな違いはあまりないのかと思います。協働学習、協働でやる実験に関して、または実験の後の結果の考察など大きな流れは今の理科でやっています。課題があって、そして探究をして、結果をみて振り返るということはどこの会社もそこまで大きな違いはないと小委員会の中で話になりました。

○山根教育長 それでは、私から、小委員会委員長にお聞きします。調査研究の観点 A「北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究」及び調査

研究の観点 B「札幌市として設定する調査研究項目」において、特徴が顕著であったのはどの教科書ですか。その理由と併せて、お聞かせください。

○理科小委員会委員長 調査研究に関して、特長が顕著な教科用図書は、「東書」「啓林館」の2者でございます。理由といたしましては、「東書」「啓林館」では、学習の導入において、生徒が自ら疑問や課題を設定し、主体的に探究することができるような工夫がされているためです。また、2者とも、生徒が課題に対して仮説を設定し、主体的に解決する学習がしやすい内容・構成、また、「学んだことを日常に生かす」「日常生活との結び付きを実感する」ことが可能な内容・構成となっております。さらに「啓林館」においては、生徒自身が考えたり、選択したりする内容が多く掲載されており、生徒が主体的に課題を探究していくことが可能な内容となっております。以上の点から2者をあげさせていただきます

○山根教育長 特長が顕著であった教科書は、「東書」「啓林館」とのことでした。2者とも課題探究型の学習がみられるということでした。これも含めて、皆さんからご質問やご意見がありましたらお願いします。

○佐藤委員 私の考えと一致しておりますので、発言させていただきます。「東書」は先ほど質問したまとめを生徒自身にさせて、明示していないということが気になったのですが、特に問題ないということですので、そういうことであれば「東書」を挙げたいと思います。

「啓林館」は今理由を仰っていただいたとおりだと思うのですが、他の点を挙げるとしたら、発問がいいなと思っております。例えば、「なぞの物質Xの正体を知るにはどうしたらいいだろうか」、「金属同士を区別したい」、「気体同士を区別したい」という自分が実現したい目標を掲げて、その方法を問うという、こういうタイプの HOW to 型、どうしても WHY 型のなぜだ、なに？というなりがちのところを工夫して、自分の持っている知識と繋げやすくしているという点において、「啓林館」の発問はいいなと思っております。みんなの探究クラブも興味深いということで、2点目は「啓林館」とさせていただきます。

○中野委員 私は第一に「啓林館」をあげたいと思います。非常に説明が詳しいということで、顕著にでているのが、3年生 81 ページの地球の正確な自転周期という説明のところでは、地球の1回の周期が23時間ちょっと、24時間より

短くなるということは知識として知ってはいますが、なぜかという説明で後転しているからという。真ん中にきているところを 24 時間と定義しているので、後転している部分だけ、回っちゃうから自転の周期が 24 時間にならないということを見事に説明しておりました。なんとなくわかっていたが、ここでやっとわかったと、自分の勉強不足をここで気付かされたということで、きわめて正確に説明しておりました。色々なところで「啓林館」は工夫されている。

また、「東書」は歴史にアクセスというところがあって、理科的な色々な疑問点が歴史的にどう説明されてきたという項目があって非常にわかりやすく、興味深いです。始めからデータがそろっているわけではなく、色々な経緯があって、わかっていたたということが整理されて説明されておりました。「啓林館」と「東書」を選択したいと思います。

○石井委員 私も二人と同じで、「東書」と「啓林館」がよいのではないかなと思います。両者とも導入部分が優れているなと思いました。理科の学ぶことの意義や有用性を実感する学習活動という部分でも日常生活に活かせるところ両者に見られるなと思いました。

「啓林館」は導入部分の写真の使い方が非常によいと思いました。3年生 82 ページの月と日食の動きが見えるような写真や 2年生の 140 ページの物質の成り立ちの部分で、各者ホットケーキやどら焼きを取り上げておりますが、「啓林館」は調理実習のようなわかりやすい膨らみ方の写真で、子ども達に想像や意欲をもたらすような写真でわかりやすいなと思いました。以上のことから、「東書」と「啓林館」を残したいと思います。

○阿部委員 私もみなさんと同じで「東書」と「啓林館」です。課題探究的な学習の取扱いという点において、問題や課題の発見の仕方、仮説を立てて、結果を招いて最終的に考察をするという流れになっております。考察の段階でこの 2 者に共通しているなと思うところは、振り返りが充実しております。多様な学びというところにおいては、自分だけではなく、生徒の意見はどうなっているのだろう、とアプローチする仕方になっています。学びの深まりというところをすごく感じたので、2 者を残したいなと思いました。

○山根教育長 そうしますと、皆さんの意見や、小委員会委員長の意見を踏まえると、「東書」「啓林館」の 2 者を選定候補としてあげることになろうかと思いますが、いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、「理科」については、「東書」「啓林館」の2者の教科書を、選定の候補とすることとし、8月5日(月)に引き続き審議を行い、それぞれ1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 では、そのようにいたします。理科小委員会の委員長、ありがとうございました。それでは、これで、協議第1号の本日の審議を終了いたします。次回29日(月)は、中学校部会の残り5つの小委員会について、審議いたしますので、よろしくお願いいたします。

○山根教育長 その他、各委員から何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 以上で、令和6年第14回教育委員会会議を終了いたします。